

## 議題1 会長及び副会長の選任について

○本審議会会長に武庫川女子大学新澤伸子教授、副会長に佛教大学堀家由妃代准教授を選出することについて、全委員より『異議なし』と回答があったため、原案通り承認する。

## 議事2 令和元年度こども未来センター実績について

<各委員からのご意見・ご質問と事務局からの回答>

### ①会長

昨年度の運営審議会でも実績について各事業の件数だけでなく実施後の効果検証について、今後事業評価を行っていく必要があると思います。きっちりとした効果検証となると準備や予算化も必要ですが先ずは利用者アンケートなども一つの指標となると思います。

件数が増えたか減ったかよりも、今後の事業の方向性を検討する上で、こども未来センターが外部機関や利用者から何を期待されているのかという情報も必要だと思います。

<事務局からの回答>

- ・こども未来センターへのご意見は、市ホームページの『市民の声』や館内に設置の『ご意見箱』で随時伺うようにしております。アンケートについては事業ごとに有用性やタイミングなど検討しながら、今後も利用者ニーズの収集について努めてまいります。
- ・わかば園については、今後とも児童発達支援事業所向けの『ガイドラインアンケート』を基に、利用者のニーズを把握し対応をしてまいります。また、保育所等訪問支援事業については、利用者・受け入れ事業所（幼稚園等）にアンケートを行い、事業のニーズや効果を把握することで今後のより良い事業展開につなげていきたいと考えています。なお、親子療育教室等も、同じくアンケートを行う予定にしております。

### ②副会長

特にありません。ただ、人員の異動や退職等の事情によりサービスが受けられる数が左右されることの問題（やむを得ないことだとは思いますが）については何らかの対策が必要となるのかも思いました。

これだけの領域にまたがり、これだけの事業が展開されている事を知り、改めてこのセンターの重要性が分かりました。市長にもきちんと評価してもらい、さらなる充実のために尽力して頂きたいと思いました。

来年の報告ではコロナの影響が出て、このような表にすることの難しさが出てくるかもしれません。ここ数年の推移等がみられれば良いのかなと思いました。

<事務局からの回答>

退職等の人的な理由による利用者への影響を最小限に抑えられるよう、後任者の採用や研修を迅速に行うよう努めるとともに、正確な事業報告を行い、事業内容に対してご理解を得られるよう取り組んでまいります。

### ③委員

資料中の『地域保健課からの紹介 131(+1)』は貴重な紹介であり、貴重な連携であると考えます。乳幼児健康診査等の場での支援が必要な子どもの早期発見、そして、そのあとに続く早期支援は、保護者の養育姿勢に大きな影響を与えています。就学後の教育相談の場で度々、保護者と面談することがありますが、孤立しないで多面的に支援の場を得ながら現在に至っている保護者の姿が見えてきます。

#### <事務局からの回答>

ご指摘の通り、孤立を防ぐために早期発見、早期支援を行うことは大変重要と考えています。地域保健課や子育て総合センター他、関係機関と連携しながら利用者に相談していただきやすいよう取り組んでまいります。

### ④委員

#### (1)かおテレビ

子供の社会性の発達について、保護者と客観的な結果を共有し、子供の発達の理解を深めてもらうためのツールとしての「かおテレビ」は大きな意味のあるもの。早い段階で保護者が子供の障害を受け入れることが出来るかどうかはその子の成長に大きく関わると思う。今後のことを考え、台数増を望みます。

#### <事務局からの回答>

財政的な課題から2台目の購入は難しいと考えております。新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は実施回数が減少しておりますが、今後もより多くの方に体験して頂けるように広報してまいります。

#### (2)障害児支援利用計画

新規作成は例年通りとなっているが、児童のセルフプランが多いという現状は少しは改善されたのか。

#### <事務局からの回答>

経年的に西宮市の障害児支援利用計画作成者数は増加していますが、児童発達支援等の支給決定数に対して追いついておらず、セルフプラン利用者数及び支給決定数全体に占めるセルフプランの割合は増加傾向にあり、改善傾向にあるとは言えない状況です。

また、こども未来センターでは計画作成の待機の解消に向けて取り組んでいるところですが、児童の相談支援体制のあり方については今後も所管の生活支援課等の関係機関と協議をしていきたいと考えております。

#### (3)診察

再診数の増加により初診の診察枠の確保が困難とあるが、未来センターでの診察を希望する方の気持ちを思うと残念。

#### <事務局からの回答>

こども未来センターでの診察を必要とされる方の受診を少しでも早められるよう、可能な限り初診の診察枠確保に努めてまいります。

#### (4) 専門家チーム派遣

学校からの依頼で子供の今後の指導に生かすための発達・医学相談の件数が小学校で多い。特に小学校の先生に子供の特性に応じた支援の関心が高まっているというのは嬉しい傾向だと思う。ますます連携支援が進むことを望む。

#### <事務局からの回答>

こども未来センターの支援内容、申込方法等は園長会議、校長会議等、小教研等の研修会で行っております。今後も学校園への周知を図ってまいります。

### ⑤ 委員

表にまとめていただき、事業がきちんと整理され、支援の充実に向けての取り組みについて一目でわかるようにしていただき、感謝です。

特に相談支援、保育所等訪問支援、支援会議等一人ひとりの実情に合わせた支援を行っておられること、またより多くの親子に寄り添う取り組みをしておられることを感じ、運営審議会での意見も反映されていることを嬉しく思いました。

#### <事務局からの回答>

- ・こども未来センターの取り組みについて、ご理解いただきましてありがとうございます。今後とも一人ひとりに寄り添う支援を心がけてまいります。また、同じ相談内容であってもそのご家庭の状況によって支援の方向性は異なることから、今後も的確にアセスメントを行い、お一人おひとりのニーズに合わせた支援を行うよう努めてまいります。
- ・地域の保育所、幼稚園に支援の必要な多くの子供たちが在籍されるようになり、地域の支援者（保育士、教諭）と共に支援について考えていける保育所等訪問支援事業は、今後も利用者のニーズを踏まえながら充実させていきながら継続していきたいと考えております。

### ⑥ 委員

#### (1) アウトリーチ

昨年度の審議会で、アウトリーチについて児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業の対象拡大があったにもかかわらずそれらの内訳がなく、検証するためには内訳が必要という意見があったにも関わらず、今回の報告でも「連携支援用」の項目で『小学校への訪問件数が増加、その他として、放課後等デイサービスや育成センターなどからも訪問依頼があった』との記載があるだけで、詳細の状況がつかめない実績報告でありました。運営審議会での議論や意見に対して誠実に対応していただきたい。

#### <事務局からの回答>

放課後等デイサービスや育成センターなどから訪問依頼があったのは診療所スタッフが行っている『セラピスト訪問』についてであり、その件数・内訳が不十分で申し訳ございませんでした。こども未来センター開所当初に比べて訪問先が拡大されておりますので、今後は内訳の種別を見直し、詳細がわかるようにいたします。令和元年度『セラピスト訪問』における『その他18回』の内訳は、中学校6回、高校2回、児童発達支援事業所2回、放課後等デイサービス1回、相談支援事業所4回、育成センター1回、聴覚支援学校1回、行政機関1回でございます。

なお、学校園支援チームのアウトリーチについては、昨年度放課後等デイサービスや育成センターなどからの依頼はありませんでしたが、報告の項目等については今後検討いたします。

## (2)令和2年度事業

令和2年度事業について、コロナの影響により、中止・縮小が見られる。それは致し方ないことです。しかしながら最終、適正に事業を評価するためには、下半期に向けそれぞれの事業について、この状況でやれること、すべきことの再検討と計画の修正が必要であると提案します。

- ・計画を現状分析し修正すること自体が大きく評価される実績となることを捕捉しておきます。
- ・職員のモチベーションにつきましても「コロナ影響で〇〇できなかった」ではなく、「コロナ対応を検討した計画で〇〇を達成した」というのが良いと思います。こんな時だからこそ前向きな表現が増えるように頑張ってください。

### <事務局からの回答>

- ・ご提案ありがとうございます。できないことよりもその状況でできることを工夫し検討することで、今後につながっていくと考えております。また、新型コロナウイルスの影響により、これまで当たり前前に実施してきたことが困難になった半面、現状を見直すきっかけにもなりました。状況が変化する中、今後の方針を的確に検討できるよう、情報収集及び共有に努めてまいります。
- ・わかば園では、大人数が一斉に集まる行事の実施が難しくなりましたが、内容や方法の検討を行い、少人数で楽しめる工夫をして行事を開催しています。今後も感染の状況を踏まえながら、新しい生活様式の下、行事開催の工夫をしていきたいと考えております。
- ・職員の研修に関しては、今まで伝達での研修報告を行っていましたが、今年度はオンラインを利用することでタイムリーに受講をする機会を増やすことができ、職員間で理解を深めることができています。

## ⑦委員

多岐にわたる様々な事業を実施されていることがわかりました。今後一つひとつの事業について理解を深めていければ良いと思います。そのためには機会がありましたら現場に足を運ぶことも大切かと思えます。

### <事務局からの回答>

こども未来センターでは福祉・教育・医療が連携し、様々な事業を行っております。機会がございましたらぜひ現場をご覧ください、ご理解を深めていただければ幸いです。また、それぞれの事業ごとに、支援の場を検証したり、利用者の評価を確認する効果的な方法について検討してまいりたいと考えております。

### 議事 3 令和2年度主要な事業について

<各委員からのご意見・ご質問と事務局からの回答>

#### ①会長

##### (1)診療所

西宮市医師会を通じて地域医療機関との連携が開始され、グループA・グループBが動き始めているのはすばらしい。具体的に各何箇所くらいあるのか、またそれらの医療機関情報は市民に開示できる方向で調整されているのか伺いたい。

##### <事務局からの回答>

『グループA』は7医療機関、『グループB』は24医療機関です。『グループB』については、連携可能な内容等について、こども未来センターからアンケートを行い、具体的な連携内容を調整中です。それにより医療機関数は多少増減する可能性がございます。医療機関情報の開示については、同意を得られていない医療機関があるため、医師会・保健福祉センター・こども未来センターでの取り扱いに限定し、各施設で必要と判断した際に保護者に情報提供する方向で考えております。

##### (2)かおテレビ

かおテレビについて実施の効果についての報告をお願いします。

##### <事務局からの回答>

かおテレビを受けた保護者がどのように感じているか、かおテレビが発達を理解する手がかりになっているか等を把握するために、かおテレビ終了後にアンケートを実施しています。(回収率96%)

平成28年度から令和元年度のアンケート結果は下記のとおりです。

#### Q1 お子さんは楽しく検査ができましたか？

	人数	%
非常に楽しくできた	277	26.3
楽しくできた	578	54.9
ふつう	186	17.7
楽しくなかった	7	0.7
全然楽しくなかった	2	0.2
無記入	2	0.2

#### Q2 検査の間、お子さんを画面に注目させておくのは大変でしたか？

	人数	%
全く大丈夫だった	575	54.7
大丈夫だった	315	29.9
ふつう	108	10.3
大変だった	53	5.0
非常に大変だった	1	0.1
無記入	0	0.0

Q3 この検査の目的や内容についての説明はよく理解できましたか？

	人数	%
よく理解できた	518	49.2
理解できた	474	45.1
ふつう	51	4.8
理解できなかった	6	0.6
全然理解できなかった	2	0.2
無記入	1	0.1

Q4 今回の結果はお子さんの社会性を理解するのに役立つと感じましたか？

	人数	%
非常に役に立った	412	39.2
役に立った	536	51.0
ふつう	90	8.6
役に立たなかった	10	1.0
全然役に立たなかった	2	0.2
無記入	2	0.2

『お子さんは楽しく検査ができましたか？』という質問に対して『非常に楽しくできた』『楽しくできた』という回答が81.2%であったのに対して『楽しくなかった』『全然楽しくなかった』という回答は0.9%にとどまっています。多くの子供が問題なく、また保護者の負担感なく、かおテレビが実施できました。

また、『今回の結果はお子さんの社会性を理解するのに役立つと感じましたか？』という質問に対して、『非常に役に立った』『役に立った』という回答が90.2%を占めており、保護者が子供の社会性の発達を理解する有効なツールになっていることが示されていました。

保護者の感想（自由記載）として、『普段気づきにくい事が客観的に分かって参考になった』『子供が相手の表情を読み取ろうとしている事が分かり、安心した』『子供の視線はコミュニケーションにも繋がるのがよくわかった』『子供に思いが伝わらない悩みがあったので、日常生活へのアドバイスがとても参考になった』等があり、一般的な子供の発達に関する理解促進や子供との関わり方等、発達に対する不安の有無に関わらず、育児支援としても効果があったと考えています。

(3) 地域・連携支援

アウトリーチの充実を図っておられるのは重要な方法だと思います。

<事務局からの回答>

本年度より私立幼稚園の定期訪問を開始しました。今後もアウトリーチの周知に努めてまいります。

## ②副会長

### (1)わかば園

インクルージョンの流れを受け、わかば園のあり方についても様々に検討していく必要があると思われました。これまでは子供達の療育を一手に引き受けるイメージでしたが、今後は通常の保育所や幼稚園へのアウトリーチ事業をより積極的に検討していく必要があるように思います。専門家の派遣により保育士や教諭にアセスメントの力を付けていくことが必要であると思われま

#### <事務局からの回答>

わかば園園児も、地域の保育所や幼稚園との並行通園を利用される方が増えたり、卒園後に幼稚園や保育所に入園・入所される方が増えたりしている現状があります。現在も行っている、『卒園児アウトリーチ』や『保育所等訪問支援事業』を行う中で、地域での支援者となる保育士や教諭と共に具体的な支援方法やこどもの見立て等をアドバイスさせて頂き、一緒に支援の方法を考えるなどの方法で、共有できる場を活かし、地域への支援に努めていきます。また、今後は、地域支援者や利用者の必要性に合わせた、事業内容についても検討していきたいと考えております。

### (2)診療所

やはり気になるのが初診待ちの長さです。地域との連携の成果がどの程度出ているのか知りたいです。またこちらについてもアウトリーチ（依頼を超えたより積極的な展開）事業の充実が望まれるように思います。

#### <事務局からの回答>

令和元年度1月より、相談の時点で未来センター診療所以外の『グループA』の医療機関を紹介することにより、新規診察申込件数が減少しております。令和元年度4月から12月の新規診察申込が月平均45件、1月から3月の月平均は27件となっております。

診療事業課の職員が学校園を訪問する事業は、診療所にかかっている子供の学校園での様子を見て技術指導や助言を行う『セラピスト訪問』が主ですが、今後は個別の子供の様子だけではなく全体を見ての助言を行うことで、学校園職員の対応力のレベルアップを図っていくことも必要であると考えております。

### (3)相談支援

相談件数の内訳（新規・継続）が知りたいです。実際のケース数なども。

#### <事務局からの回答>

電話相談は匿名でも受けており新規と継続の区別ができないため内訳は不明ですが、一度ではなく継続的、あるいは必要が生じるとに複数回相談される方は多いです。気になる方には相談員からお電話を差し上げてお話を伺っております。

来所相談は初回面談でお話を伺って支援の方向性を検討しますが、より良い支援を目指して見直しを図り、現在様々な支援の方法をとっています。利用者と書面を交わして目的や回数など合意のもと行う継続相談や小グループによる子供や保護者支援などの他、随時行っている来所相談は回数を定めていません。電話によるフォローを含めて時にはこれらをミックスして行うため、支援の終了はあくまで暫定的であり、年齢が対象外になったり、転居されたりしなければ“継続の可能性あり”というのが実情で

す。

以上のことから、ケース数については“来所相談における新規人数と実人数”という形で報告いたしますと、それぞれ723人、1,068人となります。

#### (4)あすなろ学級みらい

あすなろ学級のゴールをどこに設定しているのか。全国に同じような機関があるが、不登校の本質的な解決となっているのかよく分からない。各学校との連携をどのように作っているのか、詳しく知りたいです。

#### <事務局からの回答>

あすなろ学級みらいは、不登校の児童生徒が、将来の社会的自立をめざし、個に応じた学習機会の提供や支援を行っています。

学校との連携としては、担任と懇談を行ったり公開週間に参観してもらったりしています。それ以外にも学校とは定期的に情報交換をしており、あすなろ学級みらいでの様子や学校での様子等を共有しています。

### ③委員

学校園においては特別支援教育コーディネーターの先生が中心となり、個別の対応に止まらず、教育支援内容（授業作り、学級作り等）を充実させていくことと教職員のアセスメント力を高めていくこと等に取り組んでいる学校園が増えてきているように思います。

そこで以下2点をお願いします。

1. 特別支援教育の推進の要となるCO等の系統だった研修の継続を  
各校のCOを統括する専門的なスーパーCOを配置して下さい。
2. 市内学校園に所属している特別支援教育士（有資格者、特別支援教育の専門性と豊かな知見を持つ）の把握と積極的な活用を

「特別支援教育士」はLD-SKAIP（発達障害のある小学生の学習面の課題を早期に発見し、特性に合わせた支援をするためのツール。一定の研修を経ることによって使用出来る。）を使って個別対応、授業改善などに資することができます。WISCなどの発達検査と同様、認知機能の実態を短時間で把握することができ、現在、教育相談の一部で使用しています。今後、小学校でのニーズが高まることが予想され、また早期対応と言う事では小学校低学年での使用が効果的かと考えます。ご一考下さい。

#### <事務局からの回答>

1. 県は各教育事務所に配置したエリアコーディネーターを核とした連携体制を構築しており、育成講座を実施しています。本市からも毎年小・中学校から1名ずつ参加して研鑽に励んでいるところです。また、今年度はコロナウイルス感染防止のため中止となりましたが、『特別支援教育コーディネータースキルアップ研修』を実施し、コーディネーターの育成に努めています。今後もコーディネーターの育成に努めてまいります。
2. 特別支援教育士の有資格者の把握方法や、今後のLD-SKAIPの使用については、今後研究してまいります。



#### ④委員

##### (1)わかば園

地域の幼稚園との並行通園が出来ると初めて知った。早期に専門的な支援が受けられることは重要であるが、地域の一員としてその子供のことを周囲に知ってもらうためには並行通園ができることはとても良いと思う。保護者支援としての保護者OBを招いて今後の進路に向けた勉強会を開催されるとのこと。障害のある子を育てている先輩お母さんの話は先を不安に思う若い保護者の力になると思う。育成会の「相談ルーム」に来て下さる方も増えているので、私たちもお役に立てるよう継続していきたい。

##### <事務局からの回答>

わかば園では、保護者の方に向けた勉強会の形で保護者研修を実施しています。進路等についての相談は、個別に係ることが多く、支援者としての意見が中心となります。

『相談ルーム』は保護者であり、先輩でもある方々に個別で相談に乗っていただけ、保護者にとっても安心できる場になっています。利用された方から「直接相談したいので連絡先を教えてください」というお声を頂戴しました。こども未来センターの相談員とは異なるお立場で利用者の思いを受け止め支えていただき、貴重な取り組みと感じています。今後ともよろしく願いいたします。

##### (2)診療所

初診待機期間の短縮という課題解決に向けて、地域の医療機関との連携により、増加する発達障害の診察希望者の分散化を図っていくとある。身近な医療機関を紹介してもらえることは有難いとは思いますが、未来センターに行けば相談・診察・リハビリ・発達検査等の他、わかば園もあるし、保護者支援も受けられる。全てが揃っているという機関である。それを求める保護者が増加していて対応できないのであれば、もう一ヶ所、北部地域に同様の機能を有するセンターが設置できないものか。北部にも・・・と求める声は以前からあると思う。早期解決を望みます。

##### <事務局からの回答>

北部地域にはすでに診療所を備えた児童発達支援センターが開設しており、市の厳しい財政状況からも新たな設置は困難と考えます。利用者が少しでも身近なところで支援が受けられるよう、今後ともアウトリーチの充実や研修会の開催など学校園をはじめ地域での対応が可能となるように努めてまいります。

##### (3)あすなろ学級みらい

2ヶ所に再編されたことにより、多人数のクラスになじめず通級できなかった児童生徒が少人数制の「あすなろ学級みらい」には通級が可能になったとのこと。通級できなかった人にとってそれは大きな一歩になると思う。今後も一人ひとりの状況に応じた支援をお願いしたい。

##### <事務局からの回答>

あすなろ学級みらいでは、少人数制、半日制の利点を生かし、医療との連携も行いながら個に応じた支援の充実に努めてまいります。

## ⑤委員

### (1)アウトリーチ

私立幼稚園へのアウトリーチが開始されたことに感謝申し上げます。

さっそく、お願いしましたところ、子ども側ではなく、担任やその他の大人のかかわり方により、その子どもの抱える生きづらさ等が解消されていくことを実感しました。未来センターの専門家チームとの連携を大いに期待します。

#### <事務局からの回答>

本年度より私立幼稚園への定期訪問を開始し、アウトリーチのリーフレットを配布しているところです。今後もアウトリーチの周知に取り組んでまいります。

### (2)診療所

初診待機時間短縮に向けて、医師やセラピスト等の増員などに力を入れていただいていることを感じています。すぐに解消できるものでもないかと思われるが、時間をかけた一歩ずつの取り組みに感謝しています。

#### <事務局からの回答>

ご理解いただきまして、ありがとうございます。これからも適切な人員の確保と地域医療機関との連携により、初診待機期間の短縮を図ってまいります。

### (3)わかば園

並行通園は、必要と感じていますので、受け入れる園が増えることをのぞみます。

人員の関係や、教諭の勉強不足等により受け入れることに消極的な園もまだ多いことかと思っておりますので、アウトリーチと共に研修の充実もお願いしたいところです。

#### <事務局からの回答>

わかば園では『療育公開』を開催する中で、地域の幼稚園・保育所の先生方に支援の必要な子どもたちへの療育を見学し環境構成の方法などを学んでいただく事を実施しています。今後、見学と共に研修等の内容についても検討していきたいと考えております。

また、未来センターでは、保育士や幼稚園教諭を含めた専門職対象の研修として、『発達障害セミナー』、『身体障害セミナー』、『早期発見・早期支援講演会』を実施しております。アウトリーチについても対象児の関係者だけでなく、多くの先生方に参加していただくことで、研修の場となると考えております。新たな研修を実施することは困難であると考えますが、これらの研修等を活用していただければと考えております。

## ⑥委員

事業の質的な評価の作業を現在進められているとのこと。コロナ対策等大変な時期とは思いますが、よろしく申し上げます。質的な評価は大変難しく、評価するにあたっての視点（ポイント）、方法（当事者ヒアリング、アンケート等を含む）等を示して頂くとありがたい。

### <事務局からの回答>

こども未来センターでは複数の事業を実施しているため適切な評価の内容や方法については各事業によって異なる面もありますが、現在の『市民の声』や『ご意見箱』といったツールでは、不満のご意見が出されるケースが多いと思われまます。一方でヒアリングやアンケートであれば、プラスの評価を含めた幅広いご意見を確認できるメリットがあると考えております。評価の方法や項目、内容等については、他施設における状況についても情報収集を行いつつ、未来センター内で協議検討してまいりたいと考えております。また、わかば園では児童発達支援事業所向けの『ガイドラインアンケート』を基に、利用者のニーズを把握し、療育の質の向上につなげたいと考えております。

## ⑦委員

色々な事業で人材不足が生じているようです。人材の育成・確保が急務であると思われまます。また関係機関との協力体制がますます重要になってくると感じました。

### <事務局からの回答>

こども未来センターとして充実を図ることは責務ですが、本来は利用者が身近なところで支援を受けられることが重要であり、そのために地域を支援するのもこども未来センターの役割と考えまます。関係機関とは日頃から連携して支援を行っており、今後も継続して取り組んでまいります。

## 議事4 こども未来センターにおける新型コロナウイルスへの対応について

### <各委員からのご意見・ご質問と事務局からの回答>

#### ①副会長

今回の事態については、国の動向も定まらず我々も混乱を余儀なくされています。ただ、こうした機関の性質を考慮した時、やはり気になるのは子供たちのことです。

障害の為にマスクがしにくい子、障害の為にイレギュラーな生活を受け入れるのが難しい子などを結局は家族が何とかしなくてはならないという事態は避けたいです。

コロナを恐れるあまり、何もしないのではなく、リスクをどのように分けあっていくかの議論が必要であると思ひまます。

また、学校に行きにくい子供にとっては今回の分散登校などはむしろ良かったのではないかと思ひまます。クラスサイズの縮小を示す良い根拠となったように思ひまます。

このようにコロナによって子供たちがどのような不利益を被ったのか、それを踏まえて今後のあり方をよりポジティブに考えるような検証と議論が必要だと思ひまます。

### <事務局からの回答>

分散登校の時期は、学校が半日になり、クラスの数も半分になり、学校に行きにくい児童生徒にとっては登校しやすい環境であったかもしれまます。その一方で、6月の学校再開後すぐに、アウトリー

チの依頼があり、学校の動きについて行けない児童生徒が居たと考えられます。これらの検証については教育委員会と連携してまいります。また、今後とも支援のためにこども未来センターより職員を派遣いたします。

## ②委員

職員にコロナウイルス感染者が出た場合に濃厚接触者に該当する者のPCR検査はどこで行うのでしょうか。あすなろ学級は？わかば園は？

わかば園の子供でだ液検査が行えない子供達は鼻咽頭からの検体採取となるが、こども未来センターが行うのであれば、その対策は考えておられるのでしょうか。

### <事務局からの回答>

こども未来センターでPCR検査を行う予定はございません。保健所の指示に従い、適切な医療機関で検査を行ってまいります。

## ③委員

適切に対応していると思います。

すでに事業は再開されていると思いますが、事業によってはオンラインを活用する等柔軟な対応策を練っていただきたい。今後も研修等については、内容によってはセンターに出向かなくても実施できるのではと考えます。

### <事務局からの回答>

関係機関との会議をオンラインで行うようになり、移動時間が短縮できてメリットを感じました。利用者には原則来所相談を控えていただき極力電話相談で対応した期間については、メリット、デメリットの両面がありました。それらを踏まえて今後も柔軟に対応してまいります。また、個人情報の保護が図られたうえで、対面でなくとも実施可能な事業は、オンライン活用を検討してまいります。

なお、研修について本年度は一部動画による研修を実施しています。引き続き情報関係部局と連携しオンラインの研修について研究してまいります。

## ④委員

新型コロナウイルスという未知の感染症により誰もが経験したことの無い事態に遭遇しました。未来センターを利用する親子の不安も大きかったと思います。ぎりぎりまで通常通り開所され、緊急事態宣言下においても診察の継続や電話相談で支えられた方も多いのではないのでしょうか。また、早い段階で特別療育として園庭での療育等を実施されるなどの対応をしてくださったことは親子の救いになったことと思います。小さい子供さんの支援では3密を避けることが難しく、対策でご苦労されていることとお察しいたします。まだまだ不安な日々は続きますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### <事務局からの回答>

開所閉所の判断は非常に難しいところであり、我々にとっても日々悩みながらの対応でした。感染拡大防止対策を取りながら、必要な支援を継続できる体制を維持できるよう努めてまいります。また、電話相

談は匿名でも可能なため気軽にご利用いただける支援ツールと感じています。何度かお電話をくださった方が来所につながる場合もあります。今後も丁寧にお話を伺ってまいります。

## ⑤委員

きちんと対応してくださっているので、安心しています。感染拡大期には、行く場所がなくて困っている親子を見ました。仕方の無いこととはいえ、このままではいけないと強く思い、他の機関との連携の必要性を感じました。再開したときのホッとされた姿も見ました。その間幼稚園でできることもありました。これからも連携していくことができるよう、どうぞよろしく申し上げます。

### <事務局からの回答>

緊急時の情報共有・連携は重要であると認識しております。こども未来センターからの情報を発信しつつ、他機関ではどのような支援が可能かを把握し、連携してまいりたいと考えております。また、子供と保護者にとっては、家庭以外に学校園など身近に通える場所があることが重要と考えています。今後とも連携して支援に取り組んでまいります。

なお、幼稚園、保育所向けに動画研修『コロナ禍 子どもへの影響とその対応』を案内しています。幼児への影響を考慮し保育に取り組んで欲しいという思いでこの研修を企画しました。これからも連携してまいりたいと考えておりますのでご協力をお願いいたします。

## ⑥委員

未来センターは児童分野でのネットワーク構築を大きな柱として進めてきたところではありますが、今般のコロナウイルス感染症の流行により、学校の長引く休校や自粛要請による事業所の利用控えなど児童の生活を大きく変える環境の変化がありました。発達の変化の早いこの時期に通常必要とされていた発達支援が中断されることは、児童の未来に与える影響を考えると非常に悲しいおもいになります。

現在もコロナ禍での生活は続いており、心の孤独化は児童やその家族にジワジワとダメージを蓄積しているでしょう。特にコロナを必要以上に恐れ、事業所の利用を控え引きこもっている（引きこもらされている）児童もいるのではないかと思います。実態把握のための「緊急事態宣言後の児童及び保護者への影響調査」を提案します。また、未来センターからのアクションは児童・保護者にとって未来への希望、心の支えとなるのではないのでしょうか。

実態調査により、適切に事業所利用を進めている児童とコロナ感染を恐れ自宅に引きこもっている児童を顕在化させ、必要な発達支援が受けることができるようにする必要があります。まずはコロナにより鬱傾向や引きこもりとなった児童・保護者には積極的なアウトリーチが必要です。（未来センターの事業を中止、縮小したところの余力をそちらに投入していただきたい。）

コロナに対する啓発掲出を行っている報告はありますが、発達支援の必要な児童（保護者の場合も含む）には生活場面での一つひとつの活動に一对一で対応した行動指針が必要と思われます。一般的な掲出以外にコロナ下での生活の在り方を支援につなげる研究が必要であると意見します。

### <事務局からの回答>

ご提案頂いた調査や研究についてはこども未来センター単独では実施が難しいですが、市として取り組む方策を探ってまいりたいと考えております。

## ⑦委員

心配・不安な気持ちは免疫力を弱めます。すでに行われている対応で十分であると思います。これからはウィズコロナの考え方で事業再開・事業継続に尽力して頂きたいと思います。

### <事務局からの回答>

消毒等の感染拡大防止対策を行いながら、段階的に事業を再開しております。今後も状況に応じて適切な対策を取りながら、事業を継続してまいります。また、大人数が集まる研修等については、オンラインによる実施も含め、安全な開催方法を検討してまいります。

## その他

### <各委員からのご意見・ご質問と事務局からの回答>

#### ①会長

次年度の事業計画立案をふまえて、今年度の審議会の開催スケジュール・内容についてお知らせ頂きたいと思います。できれば対面あるいはテレビ会議等で意見公開ができることを希望します。

#### ②副会長

今回が初めてですので要領を得ず、また資料も十分に読みこなせていないかもしれませんがご容赦頂きたい。次回は是非対面（ないしは Zoom や Skype 等のオンライン）でお話を伺えればと思います。

#### ③委員

コロナ禍にあり、大変な中、このように資料をまとめていただき、委員への配慮からも書面表決という形をとってくださったことに感謝しています。新しい生活の形として、各所でオンライン会議を経験しながらも、顔を合わせて会議をすることの大切さも痛感しています。是非次回は、皆さまと顔を合わせることができるよう。いろいろとお世話になり、ありがとうございました。今後共、どうぞよろしく願いいたします。

### <事務局からの回答>

今回は書面で貴重なご意見やご提案をいただきまして、ありがとうございました。開催方法を含め委員の皆様のご意見を伺いながら充実した審議会が行えるよう取り組んでまいります。次回はぜひ対面で意見交換ができることを願っております。今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。

#### ④委員

資料を見させて頂いての感想ですが、こども未来センターの業務の範囲がとても広く、どこまでがこども未来センターの仕事であるという線引きがとても難しいように思いました。

### <事務局からの回答>

ご指摘の通り、他機関と重なる部分の業務があり、明確な線引きは難しいと考えております。子供の成長にとって将来に向けた縦と現在のつながりである横の連携が欠かせないことから、支援のネットワークづくりの中で役割を整理してまいります。

## ⑤委員

児童の発達支援を行う事業所への質の向上の為に、研修が重要ということで、西宮では未来センターが中心となって行うスキルアップの会、西宮市児童通所支援事業所連絡会の開催する事例検討会や虐待防止研修があります。その他未来センターでは保護者を含めた関係者向けの研修を開催されてきました。

しかしながら、今般のコロナの件は大きな社会生活の変容をもたらしました。障害児者の生活の質の向上を進めてきた私たちにとっては、その歩みが大きく後退した感があります。例えば自閉症スペクトラムや知的障害のある児童にとってのコミュニケーション支援は大人になったときの生活を支える大きな課題であったにも関わらず、今は人と人が密に触れ合う場面を減らし、デジタルの世界でのコミュニケーションが主流となりつつあります。今般障害福祉サービスで主流となった代替支援も特例でなく一つの支援方法として残す議論も国レベルであるようです。

今回のコロナ禍による社会環境の変化は「一過性である」、「今後も震災同様に形を変えて繰り返される」という大きく2つの考え方に分かれると思われませんが、やはり近年の日本の状況をみると后者であると判断すべきでしょう。

冒頭で述べた支援の質の向上については、三密につながる集合研修の開催が厳しくなり、西宮の積み上げてきた質の向上のスタイルが停滞していると思われまます。ウェブ研修やウェブでの資料の公開などの導入は各団体も試行的に進めているところではあります。未来センターは一早く、ウェブ会議の環境を整えたことは高く評価しています。さらにこれを進め、従来の研修を少しでも多く実現できるウェブ研修や啓発を含めたリアルタイムな情報発信のシステムを早く取りまとめ、西宮市の児童分野のスタンダードの一つとして確立していただきたい。

ワクチンや治療法が開発され早くこの状況が収束されることを願っておりますが、楽観的に考える状況でもないと思います。どんな状況でもその変化に対応し少しずつでも進めていく必要があります。この4年間未来センターが西宮市の児童にとっての大きな希望となるべく、皆様とともに歩んできました。今年度から未来センターの在り方を今一度考えようというスタートの1年であり、さらにバージョンアップした未来センターを描ける1年となることに期待をしておりました。コロナの影響のもと、この1年は過去の積み上げのさらなる前進ではなく、「マイナスの変化への対応」がテーマになります。それでも長い目で見れば、将来振り返ったときに、それも前進1ページであったと思えるような取り組みができたらと願っております。

いろいろと大変な状況ですが、(西宮市の障害のある)児童の為によろしく申し上げます。

### <事務局からの回答>

コロナ禍によりウェブ研修等新たな取り組みが行われました。利点をうまく活かして、支援の質の向上につなげてまいりたいと考えております。また、このような状況下において、様々な工夫を行い、その状況で最大限できる支援を行ったことについては、むしろプラスの経験として捉え、今後の支援に活かしてまいりたいと考えております。

なお、『スキルアップの会』については、西宮市内事業所(児童・放課後)対象で年間3回実施しておりましたが、今年度の実施に関しては検討中です(実施しない予定)。来年度以降の開催については、人数制限やオンライン等での開催を検討しております。